

2017 年度成果の説明書

(氏名) 大島 登志彦	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項 「・」で関連調査の出張日と内容を記す。 公表された具体的研究成果(論文・講演・監修資料等)を○番号で記す。</p> <p>[I]「安中市における公共交通の現況調査と利用促進に向けた提言」(同市の委託研究) 大島と安中市が連携して、バス利用者(乗客約 150 人)、無作為抽出の市民計 1500 人、高齢者等交通弱者(バスなし地区で約 100 人)を対象とした 3 種類のアンケート調査と、バス利用の実態調査(バス運行事業者が調査)を行い、その集計と分析考察を、年度末に報告書①にまとめた。</p> <p>①「安中市における公共交通の現況調査と利用促進に向けた提言」(38 頁、2018 年 3 月 高崎経済大学 大島登志彦研究室作成)</p> <p>アンケートでの主要要望や現況での欠落事項としては、以下の事項である。</p> <p>[1]バスの利便性の向上 (増発、接続改善、午後的高校の下校時に適正な代や設定) [2]松井田地区のバス運行 [3]分かり易いバスの運行と情報提供</p> <p>また、筆者は、現況規模を前提にバスの利便向上施策として、次の事項を提案した。</p> <p>[1]朝の通学時間帯の列車に接続して増発(休憩時分等を有効活用した案で増車は不要) [2]朝夕 2 往復室田ー(安中榛名駅)安中駅・市役所便を新設(現行回送ダイヤの有効活用) [3]安中市街地(駅ー碓氷病院間)に日中 30 分毎にバスを運行 (2 車両を有効活用) [4]碓氷病院で磯部・松井田方面に上記の接続バスを運行(現行では接続は未考慮) [5]秋間・後閑地域を 1 系統の循環系統とし、先端部をデマンド運行区間とする。</p> <p>[II]「蚕糸絹文化の地域・学校における教育実践とその効果」(要約表題)</p> <p>(1)(一財)大日本蚕糸会からの蚕糸絹科学文化支援事業補助(16 年度)の継続研究 ②「蚕糸絹文化の学校教育における継承」『シルクレポート』No.55. 2017 年 大日本蚕糸会は、2013 年度から、学校での有益な教育実践を「蚕を学ぶ奨励賞」として、16 年度までに全国の 14 校を表彰してきた。本研究では、ゼミナール所属の学生・院生とともに、長年ユニークな教育実践を続けてきてこれを受賞した学校を、可能な限り訪問調査する (14 校中 8 校訪問) ことを、第 1 研究課題とした。訪問校各々で、地域的特長や新たな発見があったが、それなりの教育成果を築いてきたことが考察できた(①)。また、この研究は次の(2)の業務と③④の成果の公表に生かさせた。</p> <p>(2)本学地域科学研究所の日本蚕糸業縮小過程に関わる研究プロジェクトの成果発表 ③「日本蚕糸業の縮小過程と蚕糸業文化の伝承」(高崎経済大学創立 60 周年記念・地域科学研究所シンポジウム、2017 年 12 月 9 日) (パネリストで参加して発表) ④「日本の蚕糸業の歴史・文化伝承の取り組みー関連博物館・資料館や学校での実践ー」『日本蚕糸業の衰退と文化伝承』(2018 年、日本経済評論社)</p> <p>[III] 路線バスの案内資料作成の監修業務等 ⑤「沼田市域路線バス時刻表」(2018 年 4 月版、オールカラー 36 頁)の監修補助業務</p>	

2013～15年度までの3年間、路線バスの利用促進等の検討と上記作製の受託研究を行った。そのデータを沼田市に提供して、16年度は大島が監修補助しながら市役所の担当課(生活課)が編集・作製する形態がとられ、17年度は、時刻表や路線図作成の基盤が確立したため、監修補助を行なった。

⑥「東吾妻町の公共交通案内」(2018年4月版、A2サイズ片面カラーのチラシ)

東吾妻町については、2015年度、地域交通活性化協議会(役場企画課に事務局)が独自に「乗合バス案内」(A3)が作製された。16・17年度、大島が同協議会の委員・議長としてメンバーに加入して、会議を取り纏めるなかで、バスカード導入の必要性とその効果、吾妻高校の統合を踏まえたバス路線の再編提案等を行った。そして、16年度末に当「乗合バス案内」を改訂・大判化(A2)し、17年度は、吾妻中央高校開校に伴うダイヤ改正案と改善ポイントを提案しながら、新たな当バス案内の監修業務を行った。

[IV] 「列車やバスで行く群馬の旅」⑦ (B5判分縦長で32頁)パンフレットの監修
(群馬県観光物産国際協会からの受託研究業務、5月～7月)

群馬県が設定した観光キャンペーン期間(7～9月)に合わせて、同協会が、公共交通を乗り継いで観光周遊して温泉に宿泊するモデルコースを紹介した当冊子の監修業務を行った。この受託研究業務は、15・16年度の続いて今回3回目で、新たなコースとして上越線清水トンネルと周辺を見学するコースを提案したが、その調査も含めて、下記⑧の論文をまとめた。

この業務を通して、地域社会や観光客に貢献できたと考えるし、大島自身、群馬の地域交通の課題を新たに認識し、今後の研究に生かせるものであった。

⑧「上越線の歴史を振り返る」『鉄道ピクトリアル』67-8(2017年、電気車研究会)

[V]地域課題研究「高崎市域における路線バスの利用促進と公共交通相互の連携に向けた研究」

高崎市内の路線バスの利用促進と活性化、そのための適正な資料とその作製のあり方などを研究した。また、高崎市でも導入できそうな国内の路線バスの実態調査と資料収集のための出張を行った(下記に主要なものを記載)。また、近年地方都市でも、ICカードが普及している。その場合、全国の鉄道系 SUICA・PASMO 等の直結導入は初期投資が膨大といわれるので、今後高崎市・群馬に即した IC カードシステム(首都圏に近いので前記2種の使用は必修、事業者が複雑に入り組む)の検討も、1つの研究課題と考える。

- ・7月26日：長野県大町市と周辺(安曇野市明科地区、池田町など)
- ・9月1日：那須・那須塩原市(観光巡回バスと予約ワゴンが特徴)
- ・9月3日：長野・新潟山間県境(栄村・津南町)、柏崎市
- ・10月13～14日：長野県北信地域(飯山市・高山村・須坂市=米子滝への臨時観光バス)
- ・11月10～12日：六甲・姫路(兵庫県)の観光路線バス事情など
- ・1月18～20日：東北方面(白河・須賀川市、一関・奥州市などの各種バス)
- ・2月19～20日：神奈川県西部(中井町・秦野市)のデマンドバスなどの枝交通事情
- ・2月22～23日：長和町(JRバスの自家用有償運行)、塩尻・松本市

- ・3月3～5日：京都・大阪の市内交通の歴史とターミナル跡の調査
これらの研究成果の一部は、①⑤～⑩の著作で活用している。

[VI]本学研究奨励費「群馬の産業遺産の多角的考察と活性化に向けた研究」

上記した通り、本学地域科学研究所の蚕糸業縮小過程に関わる研究プロジェクトに参加し、③のシンポジウムに参加・登壇してパネリストを務め、その研究報告書④を分担執筆して、[II]で記した蚕糸絹文化に関わる研究を総括できた。併せて、群馬県内に点在する蚕糸絹遺産の分布調査を進めた他、鉄道文化財や鉱業遺産を主体に、各地の産業遺産の観光振興の実態と取り組み、そこへの二次交通などを調査研究した。顕著な鉱山でありながら寂れて放置されつつも観光資源になりえる地域、他の観光資源と連携させて相乗効果を生みそうな遺産、一級の遺産でも知名度と二次交通が不備で観光資源になり難いものなどの事例が考察できた。県外の産業遺産も、予算と日程が許す範囲で、主に下記のフィールド調査を行った。

- ・9月9～10日：十国峠と蕨山反射炉（歴史遺産へのアクセス交通事例）
- ・9月30～10月1日：大井川鉄道(先駆の観光鉄道)、登呂遺跡
- ・10月19～22日：原爆ドーム・石見銀山・萩(世界遺産登録)、宇部(旧炭坑)
- ・3月21～23日：名古屋・四日市市、知多・渥美半島周辺の各種産業遺産を研究
これらの研究成果の一部は、②～④と⑤～⑩の著作で活用している。

[VII]通常の授業や学生指導、研究活動の中での成果

(1) 著しく貢献できた学会活動

- ・鉄道史学会：2016年9月から会長を務める(2017年度住田奨励賞選考委員を兼務)
- ・産業考古学会：理事として学会運営に参画

(2) 『交通新聞』の「交通評論」欄に連載⑨

- ・2017年5月22日「JRバスの歩んだ道」
- ・2017年7月31日「本線より早かった支線」
- ・2017年10月10日「市町村の呼称」
- ・2017年12月12日「同じ名前の市町村」
- ・2018年2月27日「市町村の最寄り駅」

(3) 日本交通政策研究会の研究プロジェクト

「観光地への公共交通アクセスの変遷と役割、効果に関する調査研究」研究に参画
交通地理学・交通経済学の分野を主体とした地域公共交通研究者が集まって、毎回2～3人の研究発表を通して、各地の事例を情報交換してきた。今年度は、表題のテーマだが、観光を含めた昨年度の研究報告書が作成され、そのなかに次の論文を執筆した。
⑩「観光地における路線バスの意義・役割とその変遷」『観光地への公共交通アクセスの変遷と役割、効果に関する調査研究』（2017年12月）

以上、○の論著は、『』に著名・「」で論文・分担執筆題目を記載し、特記以外は単著である。講演等は「」で題目を示し月日を記載した。出張は、学内研究費と上記1～[I]～[VII]の各枠組み予算が進めたが、執行時期・残額に応じて、別予算枠の出張もある。

2 その他の事項

[I] 学生・院生の学会発表や論文指導とその成果をまとめたゼミナール報告書の作製等

(1) 大学院博士後期課程院生(石関正典君・秋葉健君・吉田豊君)研究指導

石関正典君：今年度末に博士（経営学）の学位授与、主査として指導

「上毛電気鉄道と上信電鉄が経営した路線バスの展開に関する研究」

秋葉健君：JAICA の研究員でウズベキスタンにて研修中(随時メールで連絡・指導)

吉田豊君：織物の歴史関係の調査研究で査読論文 3 本執筆の指導

(2) ゼミナール卒業論集「地域調査研究論集 第 17 号」の編集（2018 年 2 月 1 日発刊）

[II] 外部から委嘱された社会活動等の重要事項記載以外の主要業績

(1) 群馬県タクシー準特定地域協議会 会長

2017 年 6 月 19 日：第 4 回群馬県タクシー準特定地域協議会 開催

(2) 伊勢崎市コミュニティバス検討委員会 委員長

2017 年 5 月 31 日：伊勢崎市コミュニティバス運行事業者選定委員会 開催

2017 年 7 月 14 日：同上 第 2 回委員会

2017 年 10 月 24 日：伊勢崎市地域公共交通会議

(3) 東吾妻町地域公共交通活性化協議会 委員

2017 年 6 月 5 日：第 12 回(通算)東吾妻町地域公共交通活性化協議会 開催

2017 年 9 月 22 日：東吾妻町地域公共交通活性化協議会 分科会

2017 年 12 月 27 日：第 13 回(通算)東吾妻町地域公共交通活性化協議会

(4) 上里町地域公共交通活性化協議会 委員(2017 年 6 月～)

2017 年 6 月 20 日：第 1 回上里町地域公共交通活性化協議会 開催

2017 年 10 月 17 日：第 2 回上里町地域公共交通活性化協議会

2017 年 11 月 17 日：第 1 回上里町地域公共交通活性化協議会分科会

2017 年 12 月 27 日：第 2 回上里町地域公共交通活性化協議会分科会

2018 年 1 月 30 日：第 3 回上里町地域公共交通活性化協議会分科会

2018 年 2 月 8 日：第 3 回上里町地域公共交通活性化協議会

(5) 旧太子駅復元整備推進委員会 委員長

2018 年 3 月 29 日：事業が完了し委員会の開催と内覧会が実施